

# 名古屋学院大学

## 2026 年度一般選抜 出題の意図

試験区分	一般入試（前期）
試験日	1月30日
科目	国語

大問Ⅰは、近内悠太『利他・ケア・傷の倫理学―「私」を生き直すための哲学―』を題材としました。多様性を重視する現代におけるケアの成立条件について、筆者の主張を的確に読み取る力を測ることを目的としました。語句・漢字などの基礎的知識を確認するとともに、具体例（アンパンマンや『ONE PIECE』）が論旨の展開において果たす役割を理解し、抽象概念と結びつけて把握できるかを問いました。さらに、文章全体の構造をふまえ、「共通の基盤」と「他者が大切にしているものを共に大切にする営為」としてのケアの定義を総合的に捉える読解力を評価することを意図しています。

大問Ⅱは、坂部恵『かたり―物語の文法』を題材としました。本文において、日本語の「むかし」や「いま」という語は、単に物理的な時間の一時点を指すものではありません。むしろ、「かたり」という行為を通じて過去が現在へと呼び戻され、神話的な次元へと昇華されていくという内なる営みが描かれています。各設問においては、機械的な字句の照合や表面的な情報処理にとどまらず、筆者の主張の核心を正しく捉える力を問う構成としました。本文中で直接用いられていない語句を正答として求めているのも、テキストの字面を追うだけの読み方から脱却し、行間を読み解き論理を再構成する、大学での学びに不可欠な思考力を測るためです。

ああああ大問Ⅰは渡邊雅子『論理的思考とは何か』を題材としました。この文章では、「感想文」にはどのような種類があるのか、それらに共通する型は存在するのか、それを書くことで個人の思考・感性・価値観にどのような影響がもたらされるのか等々について筆者の考えが展開されています。そのため設問としては、漢字問題や接続詞問題に加えて、感想文を書くことの意義についての筆者の主張を正しく理解できているかが確認できるものを作成しました。